



現在までの進路状況 (3月1日現在)

今春卒業する214名の皆さんの進路状況の中間報告を致します。
今年もコロナ禍の厳しい大学入試の中、学校推薦型選抜(指定校・公募等)での合格者106名、総合型選抜(旧AO入試)での合格者が25名となりました。また、専門学校は5名、留学は2名です。
これまで共通テスト利用入試を含めた一般入試の前半では、延べ99名の合格者が出ています。二期入試などを含めた一般入試の後半の合格発表はまだですが、詳細は、4月の最終報告の際に行います。1、2年生の皆さん、各自の進路に向けて地道に努力を重ねていくことが、栄光を掴む最短の道程です。コロナに負けずに頑張ってください。

*合格者数は2月28日現在のものです。(学習・進学指導部長 三河 一雄)

共通テストから現在まで

共通テスト

1月15・16日の2日間にわたって、2回目の大学入学共通テストが行われました。昨年度に引き続きコロナ禍の中での実施となったわけですが、平均点の低さや不正問題などで今年もなにかと話題となりました。

本校からは97名の生徒が共通テストに出願しました。1、2年生のために共通テストのスケジュールについて説明しますと、9月中旬に本校でガイダンスを実施し、そこで願書を受け取ります。受験料を振り込むと同時に願書に記入をして指定された日時までに提出します(現役生はすべて学校取り扱いとなり、個別に出願はできません)。その後確認票が送られてくるので訂正があればそこで訂正を行い、12月に受験票を受け取ります。本番に臨んだ後は、センター試験と同様に次の日学校に来て共通テストリサーチを行います(自己採点結果と志望校を記入したものを提出し、その動向を知るためのものです)。私大の共通テスト利用受験の多くは共通テスト実施前の出願締め切りとなっていますが、共通テスト実施後に出願できる場合もあります。国公立大は共通テストの自己採点結果やリサーチ結果をもとに2次試験に出願することになります。

受験のセオリーとして、「初年度はやや易しい」というものがありますが、今回難化(平均点の大幅下落)したのは初年度がやや易しいからということです。次年度以降は今年の難易度が維持されると予想した方が賢明でしょう。昨年度もお伝えしましたが、おおよその目安として共通テストもセンター試験の時と同じで「7割以降で勝負」となります。

私大入試

私大はほぼ入試も終わり、2期入試、3期入試がこれから行われます。「定員の厳格化」となって数年経ちますが、コロナ禍とはいえその傾向は大きく変わっていないようです。しっかりと実力をつけて臨まないと合格が難しいのは当然ですが、入試に民間英語検定試験のスコアを利用できる場合もありますので、1、2年生は今のうちから英検などの検定試験を受験することを視野に入れておきましょう。

国公立大入試

国公立大入試は前期日程が行われました。このあと中期日程と後期日程が控えています(1、2年生のために説明すると、前期日程で合格して手続きした場合は中期・後期日程は受験できません)。

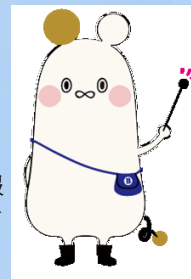
大学を知る(第5回)・文教大学

毎回一つの大学にインタビューするコーナーの「大学を知る」。第5回の今回は、文教大学の入学センターの方にお話を伺いました。

——文教大学とはどのような大学でしょうか。

本学は、越谷キャンパスに教育学部・人間科学部・文学部、湘南キャンパスに情報学部・健康栄養学部、昨年4月に開設された東京足立キャンパスには国際学部・経営学部と7学部で構成されております。

——文教大学の教育の特色はどのようになっていますでしょうか。



文教大学イメージキャラクター、BUNKO(ぶんこ)

東京あだちキャンパス 2021年4月開設。



少人数編成の担任制をとっており、先生と学生との距離が近い大学です。教員養成には実績があり、全国私立大学の中では小学校・中学校教員採用者数は全国1位となっています(それぞれ13年連続・7年連続)。公務員合格率も高い実績があります。合格のノウハウを卒業生から直接後輩たちに伝えるなど実践的な支援を行っております。

——最近のホットな話題がございましたらお願いします。

越谷キャンパスには2022年6月に5階建ての新校舎が完成予定で、より快適な学習環境の確保に期待できます。

——どのような学生が多いでしょうか。また卒業生の進路などについても教えてください。

マイペースだけど自分のやりたいことや関心を貫き通している学生が多いです。思いやりや気遣いのある落ち着いた学生も多く、本学の特色の通り先生との距離が近いです。卒業後の進路では、教員、企業、公務員就職が占める割合が高いです。



全日本吹奏楽コンクール全国大会大学の部
出場回数26回、金賞18回、銀賞8回

——御校からご覧になって保善高校にはどのような印象をお持ちでしょうか。

先生と生徒の距離が近いところは、本学に似ていると感じました。

——どのような生徒に御校に入学してほしいとお考えでしょうか。

以下の本学のアドミッションポリシーに掲げている生徒を求めています。

- ・人間愛の教育に対する理解と共感を有する人
- ・志望学部の専門分野に対する関心と学ぼうとする意欲を持っている人



・志望する学部で学ぶにあたり必要な一定の学力を有する人

——最後に本校生徒へのメッセージをお願いします

小人数制で目の届く大学ですので、安心して検討していただきたいです。コロナ禍でオープンキャンパスは希望者全員にお越しいただけなかったのが、個別にお電話いただければ見学や説明対応可能です。是非ご連絡ください。コロナの影響で進路を見失いそうなときは、多くの人と話をすることで、見えてくるものがあると思います。



大学の学費ってどのくらい？

大学に合格すると、当然のことですが学費がかかります。では大学の学費はどのくらいなのでしょう。国公立と私立では異なりますし（厳密に言えば、国立と公立でも異なる場合があります）、文系と理系でも異なります。

まずは国公立からですが、入学金が**282,000円**、授業料が年間**535,800円**です。私立の場合だと大学によって異なりますので平均値となりますが、入学金平均が**245,951円**、授業料が**930,943円**、設備費等で**180,186円**かかります。私立大学の初年度納付金は「入学金+**111,1290円**」ということになります。4年間の出費となると、**4690,467円**になります（出典：文部科学省『私立大学等の令和3年度入学者に係る学生納付金等調査結果』）。

文系と理系の違いを初年度の納付金でみると、文科平均は**1188,991円**、理科系平均は**1566,262円**。その差は**40万円**ほどにもなります。4年間では約**140万**の違いが生じます。国公立理系の場合は、上記の授業料に実習費等の諸経費がかかりますが、年間**30万**前後とも言われています。

また、数は少なくなりましたが夜間主コース（「二部」という場合もある）の場合だと昼間主のコースと比べて安い場合が多いと言えます（国公立の夜間主コースの場合だと、4年間でおおよそ**120万**程度と言われています）。

医学部の場合だと事情は少し特殊で、私立大学の医学部でも6年トータルで**2000万～4,700万**にもなります。また薬学部だと関東の薬学部の1年間の平均でおおよそ**230万円**と、医学部を除く理系の学部の中でも高い傾向があります。

もちろん、大学に納める学費だけでは済みません。大学に納める学費に加えて教科書代がかかります。大学で使用する教科書は、中学・高校までの教科書とは比較にならないくらい高価な場合があります。1冊**5000円**くらいから数万円する場合もあります。通学定期代なども含めると、大学4年間でかかる費用というのはかなりの額にのぼるわけです。

そうやって進学する大学ですから、当然のことながら大学ではしっかり勉強しなければならないことはもちろんなのですが、入学後に後悔しない大学選びというものも重要です。これだけ親に経済的負担をかけるのに、安易な進路選択をして入学後にモチベーションが下がってしまうというようなことにならないようにしたいものです。

*ここで掲載した学費の数値は文部科学省の資料に掲載されている平均値ですので、実際にかかる学費は大学によって異なります。詳しくは大学案内等を参照してください。



数学ショックが意味するもの

今回の共通テストで問題となった「数学ショック」。全体の平均点が5教科7科目で前年度からおおよそ**50点**ほど下落した共通テストですが、その主たる要因となったとされるのが**数学IA**です（予想で前年度からマイナス**20点**）。ではなぜ今回そのようなことが起こったのでしょうか。

大手予備校などが分析していますが、「目新しい形式の問題が多かった」「計算量が多かった」ということにおいてはだいたい共通しています。この「目新しい形式の問題」に関しては、数学ではあるものの長い文章を読んで理解してから解いていかないといけないことになり、最初に取り掛かりやすい問題を見極める時間すらとれなかったと言われていて、そのために時間内で全部解くことができなかった受験生がかなりの数に上ったそうです。

そういう問題への対策が今後必要になることはもちろんなのですが、それは数学に限ったことではありません。近年、文章読解能力の必要性が叫ばれてきており、いろいろな場で素早く長い文章を読んで理解することが必要になってきています。「活字離れ」と言われて久しいのですが、近年は特にスマホの普及により「自分の好む分野の、自分の好む量の文章」を読むことが当たり前になってきたため、いざ文章が与えられてみるとそれにショックを受けるということが起こりやすいのかもしれません。

文章読解能力を上げるためには「読書」というものが真っ先に頭に上がりますが、それにしてもどこから手をつけるかによって効果もまちまちではないでしょうか。文章読解に自信がないという人は、毎日一定量の新聞記事に目を通すとか、あえて選んでもらった書籍を読んでみるとか、少し踏み込んだことをしなければならぬと言えます。もちろん、「文章力検定」というものもありますので、そういうものにチャレンジすることも効果があると言えます。いくら母国語とはいえ何もしなければ身につかないのが文章読解能力。何か始めてみませんか？

トピックス

自分の進路を考える上で参考にする情報にはいろいろありますが、真っ先に思い浮かぶのはインターネットでの検索ということになるでしょう。しかし「どう検索したらいいかわからない」ということもあります。そういう場合は、あえて書籍に手を伸ばすのも一つの方法です。右の画像はフロムページ夢ナビ編集部の『国立大学で工学を学ぼう』ですが、国立大学がどうこう言う前に「工学ってなに？」というところから理解できます。分類や研究分野がざっと理解できる書籍になっていますので、工学に興味がある方は手に取ってみてはいかがでしょうか（進路指導室にあります）。

工学に限らず、今後も機会があればこのような書籍を紹介していきたいと思います。



「言葉は変わるもの」という表現を時々目にすることがあります。確かに私たちが日常使っている言葉は、例えば平安時代のそれと大きく異なっているわけですし、それは日本語に限らず外国語においても同様です。とある機関の調査によると、新語に対する理解度に関しては圧倒的に若者が優っているのですが（大学生は「メディア・リテラシー」を8割弱が理解しているのに対し、親世代は3割強にとどまる、など）、その一方で読解力の低下に関してはここ数年OECDの調査結果でも明らかになってきています。今年の共通テストの「数学ショック」のように短時間で文章を読んで理解することに苦労するさまざまな不利益を被ることがあります。新語に対してだけでなく、言葉そのものに対する感度を高めておくことが必要かもしれません。「トリマ」「イミフ」なことばかりに時間を使わず、「秒で」正しい語彙力をつける努力をすると、読解力が向上することが「ワンチャン」ある、ってことでしょうか……。すみません、ちょっと無理してしまいました。

